

第 6 回算数・数学ワーキンググループについて

2016 年 5 月 13 日に中央教育審議会教育課程部会の算数・数学ワーキンググループが開催された。

10:00 から 12:00 まで文部科学省 3 階 1 特別会議室で行われた。

一般傍聴者は 40 名程度であった。

今回の議題は以下の通りである。

1. 算数・数学の見方や考え方、アクティブ・ラーニングの三つの視点を踏まえた資質・能力の育成のための普段の授業改善について
2. 資質・能力の育成のために重視すべき算数・数学の評価の在り方について
3. 統計的な内容等の改善について
4. 算数・数学において育成すべき資質・能力について
5. その他

まず事務局から資料の説明があった。

資料 3「数学的な見方・考え方（案）」として、これまでの案に修正を加え「事象を数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え、論理的、統合的・発展的に考えること」とした。さらに、これについて小・中・高の段階ごと領域別に具体的な例を示した。さらに、資料 4 ではアクティブ・ラーニングの三つの視点について算数・数学における授業改善の例を示した。

10:15 頃から議題 1 についての意見の交換が始まった。

アクティブ・ラーニングの三つの視点に基づく授業改善の例について、教科の特徴をもっと出すべきという意見や、例示だけでは不足なので説明があった方がいいという意見があった。また、このような活動について現行の「数学的活動」にすべて入っていて現場では既にやっているとの声もあるので、よりわかりやすい示し方が必要ではないかとの意見もあった。

11:00 頃より議題 2 について資料の説明があった。

資料 5「資質・能力のいくせいのために重視すべき算数・数学の評価の在り方について（案）」として、各校種別に評価の観点の修正して示された。

これについては、「知識・技能」の中に形式的な処理ができることも入れてほしいとの意見があった。また「知識を身に付ける」という文言が削除されたことについて、知識をインプットするのではなく、知識がいきて活用されるために「理解」の方がよいという意見や、

知識はどんどん深まって変化していくものであるから「知識の定着」という表現を使わない方がよいとの意見があった。

11:15 頃から議題 3 について資料の説明があった。

統計教育における目標や資質・能力の整理についてこれまでの議論を踏まえ表現の修正を加えたものが示された。

統計の学習過程を示した図が分かりづらいとの指摘に対して、グラフの型を教えるだけでなく、グラフの再作成の大切さを表す図であるとの説明があった。

11:30 頃から議題 4 について資料の説明があった。

資料 7「幼・小・中・高等学校を通じた算数・数学教育のイメージ（案）」では、「数学的な見方や考え方が重要である」という議論の流れから、その文言を追加するなどして修正が加えられた。

資料 8「高等学校の理数・数学・理科において育成すべき資質・能力（案）」では、関連する教科として数学の他に理数と理科の資質・能力についても現状での案が報告された。

小学校における目標の中にある「友達の考えから学ぶ」という表現について、これではできず子の考えを聞くだけになってしまう可能性もあり、「対話的学び」を示していないので修正すべきだとの意見があった。

11:50 頃、終了となった。

次回は同日の 13 時より引き続き行われた。